

## 『普天間基地は県外へ』政府は沖縄の声を聞け11・24集会

尾沢孝司

一月二四日、東京・文京区民センターにて、辺野古への基地建設を許さない実行委員会主催で『普天間基地は県外へ』政府は沖縄の声を聞け11・24集会が開かれました。

この間米上院では、米国家財政破綻——軍事費大幅削減のために、米軍再編——沖縄の海兵隊のグアム移転の予算案が凍結され、辺野古移設見直しが出ています。これを回避するために辺野古への移設が進展していることを示す必要があります、そのために日本政府は、来日したパネッタ米国防長官に、環境影響評価の最終段階である評価書の沖縄県への提出を約束し、更にパネッタ長官は、次の段階である辺野古の海の埋め立て申請も出来るだけ早期に行うように要求しました。

このような緊迫した情勢の中で、この集会は、沖縄では県民の総意として表明されている「基地は県外へ」という民意を全く無視して、日米政府が辺野古への移設を、頭越しに押し付けてくることに対して、日本政府が沖縄の声をしっかりと聞いて、米政府に対して再交渉を行えという声を、首都東京で大きく上げていこうと行われたものです。

集会では、始めに主催者より、集会の前にゲストの島田善治さん、山内徳信参議院議員が参加して防衛省への抗議申し入れが行われたことが報告され、日米政府がどのような合意をしようが、それは砂上の楼閣であり、辺野古移設は不可能であること、集会名について決まるまでの経緯を説明し、「基地は県外へ」はもはや県民の総意であること、この沖縄の声を政府はしっかりと受けとめ、米政府と再交渉しろという声をさらに大きくしていこうと訴え、今の焦点である評価書を、県知事が受け取りたくないとは表明することは政府への大きな圧力になるので、知事への要請ハガキ運動が呼びかけられました。

次に、民主党の山内徳信参議院議員と同じく民主党の服部良一衆議院議員が国会議員として挨拶したのに続いて、この集会のメインゲストである島田

善次さん（牧師／普天間爆音訴訟団長）が沖縄からの熱い訴えを行いました。島田さんは、地図を使いながら普天間基地の辺野古への移設問題は、単純な移設問題でなく、軍港や弾薬庫を備えた全く新しい新基地の建設であること、二〇一二年秋には、今でも住宅地の上を軍用機が爆音をたてて飛来する世界で最も危険な普天間基地に、開発段階から何回も死亡事故を起こし極めて危険である垂直離発着型新型航空機（輸送機）「オスプレイ」が配備される計画があることについて、「危険なオスプレイ」というDVDの映像も活用して告発しました。また今でも沖縄戦で亡くなった八〇〇〇〇体の遺骨が残り、沖縄の戦争被害と差別の歴史について鋭く指摘し、ヤマトから年間五〇〇万人もの観光客が来るが、基地や県民の苦しみについて考えることもないと批判し、全国知事会である県知事がいった「自分のところに基地が来たら子供や女性が危ないから困る」というヤマトの言い訳は、沖縄なら女性が強姦されてもいいということなのかと強く糾弾し、韓国や中国が日本を嫌うのがよくわかる、言葉だけ謝っても心が伴わないことがわかるのだ、自分も日本が嫌いだ、独立したいと、沖縄民衆の怒りを熱い心で訴えました。

休憩の間、司会から防衛相と県知事宛のハガキ運動の訴えがあった後、特別報告として、沖縄・生物多様性市民ネットの花輪伸一さんから、辺野古アセス評価書が、いかに違法な、非科学的なものであるかを、スライドを使って分かり易く説明され、評価書の提出の取り止めと、公有水面埋立免許申請の取り止めを要求することが重要だという訴えがありました。次に平和フォーラム、沖縄東部集会実行委員会からの連帯の挨拶の後、沖縄・一坪反戦地主会関東ブロック共同代表の外間さんより与那国への自衛隊配備反対の現地集会の報告とその支援のTシャツやお酒の販売の訴えがあり、最後に集會決議を採択して、終わりました。参加者は一六〇名でした。

（おざわ・たかし／日韓民衆連帯全国ネットワーク）